

女子学生の進路支援を目的としたメイクアップセミナーの有用性 ～3年間の調査を通して～

田中 孝国*, 伊澤 悟

*小山工業高等専門学校 物質工学科 (〒323-0806 小山市中久喜 771)

小山工業高等専門学校 機械工学科 (〒323-0806 小山市中久喜 771)

*tanakatakuni@oyama-ct.ac.jp

Effectiveness of a seminar on makeup for the purpose of supporting the careers of female students

Takakuni TANAKA and Satoru IZAWA

National Institute of Technology, Oyama College

(771 Nakakuki, Oyama City, Tochigi Prefecture 323-0806, JAPAN)

(Received April 21, 2016; Accepted June 9, 2016)

In recent years, questions from female students about makeup for job hunting have increased. Therefore, we held seminar on makeup to support female students in the course in 2013. This seminar progresses through two steps taught by Shiseido instructors. First, Shiseido's makeup instructors explained the method of the makeup and how to enhance the smile. Next, students practiced the practical skill of applying the makeup with individual guidance from the lecturer. After the seminar, we distributed a questionnaire survey to measure the effectiveness of the seminar. The results showed that a majority of students felt that the seminar was effective. Especially, many students responded, "basic makeup was studied." We are going to carry out this seminar for female students in the future.

Key words: career support, makeup seminar, female students

1. 背景

小山高専では、学生の進路支援のためにキャリア支援室を設け、様々な学生支援活動を開始した。低-中学年である1-3年生には卒業後のキャリア形成のための外部講師による定期的なセミナー(OB/OG等を中心に年1-2回)や、インターンシップに関する説明会を実施している。実際に進路活動が本格的に始まる4年生では、進路説明会(就職/進学)、外部講師による就活マナー講座、女子学生のためのメイクアップ講座、高専生のための合

同就職セミナー(主催は企業、都内で年2回)、おやま産学官ネットワーク主催の開運おやま就職祈願式、学内で行われる栃木県内企業の企業概要説明会、模擬面接練習(随時)といったプログラムを組んでいる[1]。

近年様々な大学や高専で注目されているのが女子学生のためのメイクアップセミナーである。この取り組みを実施している大学・高専は非常に多い。高専の実施例として、「メイクアップセミナー」と「マナーセミナー」を資生堂に依頼して実施した広島商船高専[2]、メイクアップアーティストを講師として呼んだ仙台高専(参照

は学校 HP) [3] , ノエビアから講師を呼んだ沖縄高専(参照は学校 HP) [4] や福島高専(参照は学校 HP) [5] 等の例がある。セミナーの内容は、メイクをする理由や効果的なメイク方法を実演しながら説明する、実践および個別指導を交える形式など何種類か存在する。開催時期は進路関係の活動の始まる直前である、前年の12月から翌年の2月に多く見られる。

我々も就職や進学活動に直面した女子学生から受ける質問のうち、メイクに関する質問がここ数年増えてきたことを受け、2013年度より資生堂販売株式会社 関越支社 宇都宮オフィス美容統括部に依頼し、個別指導付きのセミナーを開催した(図1)。本報告では、ここ3年間、メイクアップセミナーの有効性についてデータをまとめたので報告したい。



図1 セミナー中の様子

2. 実施したセミナーの内容

セミナーの内容は、表情(笑顔)の自然な作り方・メイクアップ実技のセットで約2時間の構成であった。図1中に見られるスクリーンを用い、講師の用意したパワーポイントファイルを基に、まずメイクアップの必要性やコツについて口頭説明が行われた。具体的には、口角の上げ方や笑顔のつくり方、実際に自分や他人の笑顔を確認した。特に、好感を持たれる第一印象とは、美しい姿勢とステキな笑顔であり、内面を外観で表現する重要性について述べられた。また、鏡を見て笑顔のトレーニングを行なうこと等、アドバイスを受けた。その後、参加学生1人1人に配布された鏡や化粧品を使用したメイクアップ実技が実施された。講師は巡回個人指導を行うと

同時に、モデルを学生から募り(図2)実際に講師がメイクアップを皆の前で教える等が行われた。参加学生達は、活発な質疑討論を行い、メモも熱心にとっている姿が見られた。3年間のアンケートは、参加学生の進路が決定した11月頃に実施した。



図2 配布された鏡や化粧品

3. アンケート結果及び考察

今回実施したアンケートは、セミナー終了後、参加者全員から結果が得られた。また、以降の表のタイトルは、アンケートの質問内容となっている。

表1より、2013年度の参加割合(=100×参加学生数/参加対象の女子学生数)が2014-2015年度に大きく下がっていることがわかった。この理由としては、2013年度は無料実施だったのに対し、2014年度は500円/人、2015年度は1080円/人の実費制(セミナー当日に回収した、また2016年度以降は1080円/人で固定される予定)であったことが要因と考えられた。

表1 セミナー参加学生について [人]

$$\text{参加割合} = (\text{参加学生数} / \text{参加対象の女子学生数}) \times 100$$

	2013年度	2014年度	2015年度
参加対象の女子学生数	22	21	27
参加学生数	21	9	14
進学学生数	11	3	7
就職学生数	10	6	7
参加割合	95%	43%	52%

続いて表2は、進路を決定する際のセミナーの有効性について、3年分のデータを集計した結果である。役立った、または普通と答えた学生が多く、特に就職の学生に好評であったことが判明した。

表2 進路決定において、
メイクアップセミナーは役立ちましたか？ [%]

	進学	就職
役立った	48	70
普通	38	30
役に立たない	14	0

表3は、セミナーの役立ったと感じた部分について、3年分のデータを集計した結果である。この質問では、「基本的なメイクアップが勉強になった」と答えた学生が多いことが判明した。また、「実践的であった、実際に活用した」という学生も多く見られたことから、進路支援として有効なセミナーであったことが示唆された。

表3 セミナーにおいて最も役立ったと感じた点 [%]
(空欄に自由記載させた)

	進学	就職
実践的であった、 実際に活用した	10	39
基本的なメイクアップが 勉強になった	52	57
自分に自信が持てるようになった	5	0
メイクアップに関する意識が 向上した	5	0
役に立たない内容は無かった	0	9
時期が早くて良かった	0	0
無回答	29	4

一般に女子学生がメイクアップに関心を持ち、開始する時期として、島崎らの短大における調査によれば18-20歳が全体の約95%を占めることが報告されている[5]。今回のセミナーに参加した学生も同じ年齢層であ

ることから、メイクアップに興味を持つきっかけ作りになる効果も考えられた。

表4は、役に立たないと感じた部分について、3年分のデータを集計した結果である。様々な意見が寄せられたが、自分の普段使用している化粧道具について知りたかった、と答えた学生が約10%見られた。本アンケート提出の際に、普段使用している化粧道具に関する意見を寄せた学生に、その内容を詳しく聞いたところ、セミナーで使用している化粧品サンプルは(学生が普段使用するには)少々高級品で、日常的に使用しにくい製品であったことから、そのように記述したと答えていた。各自の使用している製品のメーカーのセミナー講師を呼ぶことは難しいため、2014年度以降は、資生堂の講師が資生堂の製品を用いてセミナーを実施するなどの事前説明を参加学生に実施している。

続いて、職種によるメイクアップの違いについて知りたかったと答えた学生が22%見られた(3年間の調査を通して)。開催したセミナーは、時間の都合もあるため、講師の先生と話し合い、メーカーの総合職を対象としている。そのため、それ以外の職種用のメイクアップについては、現状対応は難しい。そのため該当の学生は、個別指導の際に、質問をしていたようであった。

最後に、メイクアップセミナー以外に学校に期待する支援内容について自由意見を求めた。意見として寄せられた内容および我々が対応した内容を表5にまとめた。様々な意見が寄せられたが、情報周知が不十分な学科については、2013年度から複数回の案内を送っている。進学に対する面接指導は、専門的な口頭試問が入るため、各学科での対応しか現状では方法は無い。従って、担任引き継ぎの際には、過去の質問事項(および回答例など)を受験した学生に記録として残してもらおうよう伝えている。また、学科の学生が就職可能な日本の業界や、進学(編入)可能な大学や過去問について小山高専の学内サーバーにまとめなおした(外部からのアクセスは不可)。更に、2014年度より、1学年から企業の方による講演会を開催している。エントリーシート(ES)や調査書、先輩体験談、服装・髪型、就職の現状については、学内

セミナーで実施している。そのため、参加の呼びかけを複数回行う対応は、今後もいっそう必要であると考えられた。

表4 セミナーにおいて役に立たないと感じた点 [%]
(空欄に自由記載させた)

	進学	就職
自分の普段使用している道具について知りたかった	10	9
進路決定には関係無い	14	0
入試にメイクは必要ない	5	0
普段、自分で実施している内容と変わらなかった	0	4
もう少し個別指導が欲しかった	0	9
役に立たない内容は無かった	5	13
職種によるメイクアップの違いについて知りたかった	0	22
無回答	67	43

表5 現時点で不足している内容および
学校側の対応 [人]

寄せられた意見	現状の対応・改善策など
セミナー等の情報が周知徹底されていない	学科教員の周知不足であったため、該当教員へ改善を促した。
進学組にも練習指導して欲しい	おそらく推薦面接だと思われた。各学科対応のため、特に対応していない。
ESや調査書の指導をもっと行って欲しい	個別指導態勢がある。学科教員の周知不足であったため、該当教員へ改善を促した。
面接指導を実施して欲しい	個別指導態勢がある。学科教員の周知不足であったため、該当教員へ改善を促した。
先輩の(編入学試験や就活)体験談が聞きたい	各学科対応のため、特に対応していない。
男子にもメイクアップセミナーを行って欲しい	男子学生対象の場合、人数が多く日程や会場の確保が難しいため、現状は対応していない。
服装、髪型について知りたい	別料金のため実施しなかった。
就職の現状について知りたい	就職関連企業によるセミナーの開催、合同セミナー参加の開催を増加した。
業界について知りたい	
大学について知りたい	大学・大学院説明会の回数を増加させる予定である。
筆記試験対策	各学科対応のため、特に対応していない。
今のままで十分	

今回のアンケート調査を通して、今後、学生の要望に答えるためには、就職だけではなく進学に対する指導を行う教員を各学科でリストアップし、対応する必要があると考えられた。各学生に対応することは時間がかかると考えられるため、避ける教員も少なからずいるが、学生指導は教員の義務であるため再考を促している。

4. まとめと今後の予定

今回我々は、女子学生の進路支援の1つとしてメイクアップセミナーを開催し、その効果について3年間の調査を実施した。その結果、進路支援策としてのメイクアップセミナーの有効性が確認され、役立つことが判明した。対象の学生全員参加は難しいが、我々は今後もポスター等を作成し、参加を呼びかけていく予定である。

謝辞: 講師を引き受けて頂いた、資生堂販売株式会社 関越支社 宇都宮オフィス美容統括部の山田桂子様に深く感謝する。

参考文献

- [1] 田中孝国, 伊澤悟, 奥山優, 田野賢司: 『小山高専で開催された企業概要説明会に参加した企業へのアンケート調査』, 日本高専学会誌, Vol.19, No.4, pp.53-55 (2014.10)
- [2] 岩本亜衣, 岐美宗, 木曾博子, 常田正英: 「就職活動におけるマナー教育の実践」, 日本高専学会第18回年会後援会講演論文集, pp. 265-266, 2012.08
- [3] 仙台高専 <http://www.sendai-nct.ac.jp/>, 就職対策キャリア支援活動 「女子学生のためのメイクアップセミナー」開催情報
- [4] 沖縄高専 <http://www.okinawa-ct.ac.jp/>, 「女子学生のためのメイクアップセミナー」開催情報
- [5] 島崎 千江子, 青海 邦子, 野坂 純子, 足立 恵美, 酒井 健: 『女子学生における化粧行動の意識及び印象評価の調査』, 大手前短期大学研究集録, 33 巻, pp. 1-38 (2014.03)